

ホストタウンの第一次登録の状況と 今後の推進について



平成28年2月

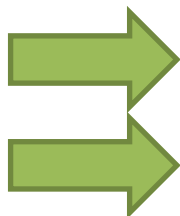
内閣官房オリパラ事務局

(内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局)

ホストタウンとは

2020年の大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げる。

1. 以下の取組みを行う地方公共団体は、ホストタウンとして登録できる。
 - ① 住民等と次に掲げる者との交流
 - － 大会等に参加するために来日する選手等
 - － 大会参加国・地域の関係者
 - － 日本人オリンピック・パラリンピアン
 - ② ①に伴い行われる取組みであって、スポーツの振興、教育文化の向上及び共生社会の実現を図ろうとするもの
2. 内閣官房オリパラ事務局に、団体からの相談・申請等を受け付ける窓口を設置する。
3. 関係府省庁は、各種財政措置（特別交付税などの地方財政措置を含む）、人材の派遣、情報提供などを通じ、ホストタウンの取組みを支援する。



大会前後を通じた継続的な取組みにしていく

上記取組みを核として、更に地域のグローバル化、活性化、観光振興等へとつなげていく

事業イメージ①

オリンピックとの交流を通じ、スポーツの素晴らしさを伝える

- オリパラの意義を学ぶ
- オリンピアンを経験を聞く
- オリンピアンと競技を楽しむ（校庭、体育館、プール）
- 2020年オリパラ終了後日本代表選手を招き、触れ合う
- 事前合宿に来た外国人選手と競技を楽しむ



必要な経費を支援（例）

- 日本人選手の招へい
- 競技体験イベントや講演会の開催
- 競技施設の改修（国際競技連盟基準への適合）
- 事前合宿の誘致・実施

（ボランティア養成、警備、宿泊、輸送）

事業イメージ②

大会参加国の方々との交流を通じ、外国を知り日本を伝える

- 相手国からゲストを招き、歴史や文化を知る
- 相手国のリオでの活躍を応援する
- 生徒から日本文化を紹介する
- 来日した外国選手や同行スタッフに地元の魅力を体験してもらう



必要な経費を支援（例）

- 相手国の在京大使館員、在日外国人の招へい
- ホストタウンの魅力を体験してもらうイベントを開催
- 生徒の相互往来

事業イメージ③

パラリンピアンとの交流を通じ、共生を学ぶ

- パラリンピックの種目を知る
- パラリンピアンのお話を聞く、触れ合う
- パラリンピアンと一緒に競技を体験する
- バリアフリー、ユニバーサルデザインの大切さを学ぶ
- 2020年パラリンピック終了後日本代表選手を招く



必要な経費を支援（例）

- パラリンピアンやスタッフの招へい
- パラリンピアン競技の体験イベントの開催
- 施設のバリアフリー化

ホストタウンへの地方財政措置案の概要

- 特別交付税措置
 - 交流事業等に係る経費
 - 対象経費の一般財源合計額の2分の1
 - 既存の特別交付税措置の対象となる経費も
 - ・ 民間施設、交通施設のバリアフリー化
- 地域活性化事業債
 - これまで対象外だった競技施設の改修経費を一部対象に
 - いわゆるIF基準（国際競技連盟が定める基準）を満たすために必要な既存の競技施設等の改修経費
 - 起債充当率 90%
 - 元利償還金に対する普通交付税措置 30%

※いずれも平成28年度予算において措置する予定

ホストタウンの事業（イメージ）

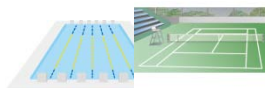
2016～
（大会開催まで）

2020
（大会中）

2020～
（大会直後～）

オリパラを契機とした選手や関係者等の呼び込み

事前合宿の受入れ



姉妹都市交流等



オリンピック・パラリンピアンとの交流

選手による講演

土曜学習会で競技体験



相手国の関係者との交流

ウェルカムパーティーの実施

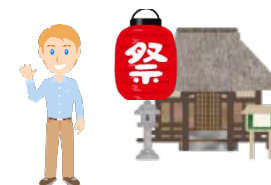


相手国の応援



相手国選手との交流

競技終了後に
選手が地域を往訪

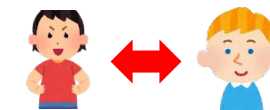


国際競技大会の
事前合宿の受入れ



相手国の関係者との交流

両国生徒の相互往来



ユニバーサルデザイン化



多言語対応



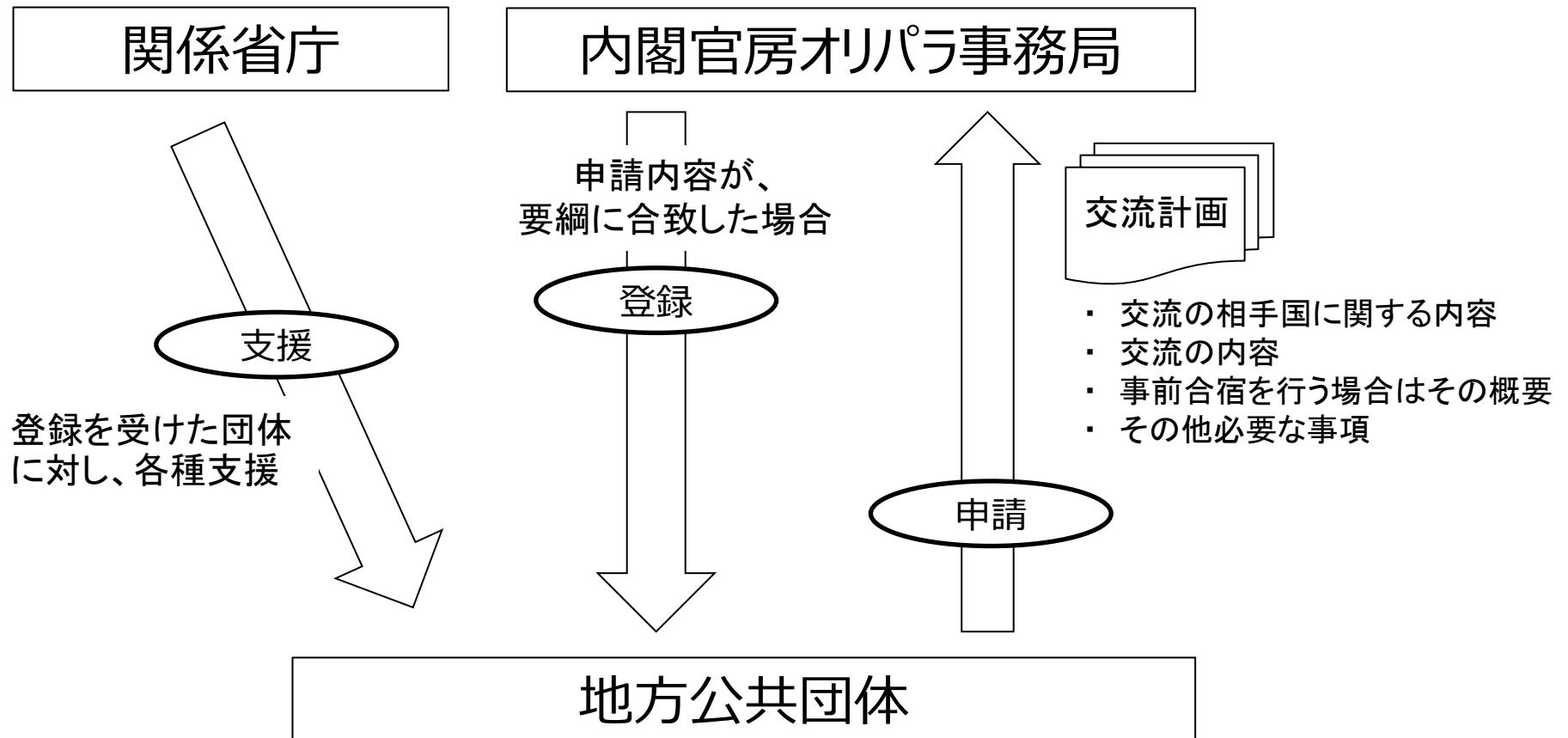
競技場改修



人材育成、ソフト・ハードの充実を大会のレガシー（遺産）に

大会後も継続して交流

ホストタウンの事業の流れ（イメージ図）



これまでの取組及び今後のスケジュール

平成26年

- 6月24日 「経済財政運営と改革の基本方針2014」の閣議決定
- 7月18日 関係府省庁連絡会議（第1回）

平成27年

- 6月24日 「経済財政運営と改革の基本方針2015」の閣議決定
- 7月28日 遠藤オリパラ大臣より構想の概要を公表
- 7月29日 全国知事会議（於：岡山市）で、遠藤大臣より構想への参加を呼びかけ
- 8月5日 全国の都道府県・政令指定都市向けの説明会を実施
- 9月30日 関係府省庁連絡会議（第2回）
事業要綱・公募要項等を全国へ発出
- 11月2日 ホストタウンの第一次登録申請の受付開始（12月11日締切り）
- 11月27日 オリパラ特措法に基づく「基本方針」の閣議決定

平成28年

- 1月26日 関係府省庁連絡会議（第3回）
第一次登録団体の公表（44件）

（以下予定）

- 5月中旬 第二次登録申請の受付締切（6月上旬頃、登録団体を決定・公表）
- 10月末 第三次登録申請の受付締切（11月頃、登録団体を決定・公表）

一次登録申請の審査の結果

■ 一次登録申請の受付期間

平成27年11月2日～12月11日

■ 一次登録申請の審査の結果

申請件数：69件



登録件数：44件

継続審査：25件

（相手国との交渉の進捗等を待つこととし、継続審査とする）

※ 複数の国との交流計画を出している場合も1件とカウント

ホストタウン（一次登録）の概要

都道府県	登録団体名	相手国・地域	計画の特色
北海道	網走市	オーストラリア	<ul style="list-style-type: none"> 国内ラグビーチーム合宿地のメッカ。小学生のタグラグビーも盛ん。ラグビートップリーグのチームも合宿に訪れており、所属するオーストラリア選手・スタッフとの縁を活かし、同国の7人制ラグビー代表の事前誘致に取り組む。 オーストラリアのパラレーサー（車いす陸上）チームとも交渉できる環境にあり、事前合宿の誘致を進める。
	士別市	台湾	<ul style="list-style-type: none"> 「合宿の里」を掲げており、夏季五輪や世界陸上などで実績がある。 ウェイトリフティングでは、事前合宿や市出身のオリンピックの存在など歴史と実績がある。強豪国の一つである台湾を事前合宿に誘致。
	名寄市	台湾	<ul style="list-style-type: none"> 2015年には名寄日台親善協会を設立し関係強化を進めている。また、Sport for Tomorrowの事業として、台湾とスポーツ交流を行っており、こうした縁を活かし、台湾の事前合宿誘致を進める。
青森県	今別町	モンゴル	<ul style="list-style-type: none"> 3月26日開通の北海道新幹線沿線で、本州最北端の駅ができる。 町長自身も元国体のフェンシング選手であるなどフェンシングが盛んな土地柄。 2015年10月にモンゴルのフェンシングチームの事前合宿の受入れが決定。小中学校生とモンゴル選手との交流機会を設け、町の伝統芸能である「荒馬」を披露するなど両国の文化交流の促進を図る。
宮城県	仙台市	イタリア	<ul style="list-style-type: none"> 2002年FIFAワールドカップサッカー大会の開催時に、イタリア代表の合宿を受け入れた縁を活かし、同国の事前合宿を誘致。 「慶長遣欧使節団出帆400周年事業」などの実績を活用しながらイタリア文化に関連する交流事業を行う。同国はヨーロッパで数少ない地震のある国であることから、防災に関するシンポジウムを開催する。
	蔵王町	パラオ	<ul style="list-style-type: none"> 第2次大戦後、パラオから多くの入植者を受入れ（このことにちなみ「北原尾（きたはらお）」という地名も存在）。 このような縁を活かし、パラオ共和国の事前合宿を誘致し、交流を深化させる。
秋田県	秋田県美郷町	タイ	<ul style="list-style-type: none"> 地元実業団チームと親交のあったタイのバドミントンチームとの交流。2020年に向け、相互に交流合宿を実施。
山形県	上山市	ポーランド	<ul style="list-style-type: none"> 2015年世界陸上の際、蔵王坊平アスリートヴィレッジで事前合宿を行ったポーランドとの交流。 大会時に訪問する選手等に地元特産品を食してもらい、温泉入浴体験など地域資源のプロモーション活動を実施。
福島県	郡山市	オランダ	<ul style="list-style-type: none"> 国営開拓事業第1号となる安積開拓・安積疏水開さく事業に貢献したオランダ人技師が縁となり、30年近く姉妹都市交流を継続しており、そのつながりを利用して、事前合宿を誘致し、産業・経済分野での連携につなげる。
	猪苗代町	ガーナ	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の偉人である野口英世博士は、黄熱病の研究中にガーナで命を落とした。 野口英世の功績をしのび1993年から継続している交流を、事前合宿誘致を契機に深化。

都道府県	登録団体名	相手国・地域	計画の特色
茨城県	坂東市	リトアニア	・日本リトアニア友好協会との縁を活用して事前合宿を誘致。合宿を契機に交流を深め、同国の都市と友好都市協定締結を目指す
群馬県	前橋市	ハンガリー	<ul style="list-style-type: none"> 1964年大会時、ハンガリーレスリングチームの競技補助員を務めた県教諭とハンガリー代表選手の親交が両国の柔道競技の交流に発展。それ以降、不定期ながら、相互訪問、親善試合等を開催。 今回の大会を契機にこの交流を強化し、事前合宿の誘致や交流の定期化などを目指す。
千葉県	山武市	スリランカ	<ul style="list-style-type: none"> 里親里子交流をきっかけに、2014年12月にスリランカの事前合宿受入れが決定。 市の地方創生総合戦略にもオリパラに係る取組みを位置付けており、スリランカ公用語のシンハラ語教室の開催や「田んぼアート」による歓迎イベント、市内農産物の加工品販売拡大等を通じ、地方創生につなげる。
東京都	武蔵野市	ルーマニア	<ul style="list-style-type: none"> ルーマニア革命から間もない1992年から友好都市交流のあるブラショフ市との交流が基盤。毎年50日間、日本文化研修のためブラショフ市民を招へい。 これまでの交流をさらに深めていくため、オリパラを契機に、文化分野に加えスポーツ分野での交流を開始。
	調布市	サウジアラビア	<ul style="list-style-type: none"> 2002年FIFAワールドカップサッカー大会の事前合宿を受け入れたことを契機に交流が開始。 今回の大会を契機に一層の交流を展開。調布市花火大会に同国関係者を招待するなど調布の魅力を体験してもらおうとともに、大会時には選手の小学校訪問等の交流事業を検討。
神奈川県	神奈川県 小田原市 箱根町 大磯町	エリトリア	<ul style="list-style-type: none"> 「国は違えど空（SKY）は同じ」。エリトリア国関係者との交流等を通じ、地域における「（S）スポーツの振興」「（K）教育文化の向上」「（Y）友好関係の構築」を実施。 東京マラソン等で来日する選手を地域イベントに招待し、おもてなし。小田原提灯・寄木細工等特産品を活用し、地域の魅力を発信。
	横浜市	英国	・英国の事前合宿の受入れと、それを契機とした選手等との交流。駐日英国大使館と連携した交流事業や、2019年ラグビーワールドカップ開催地でもあることから、ラグビー交流にも取り組む。
	川崎市	英国	・JOCの取組みと連携して、英国の事前合宿を受入れ。選手と子どもたちの継続的な交流のほか、ミュージア川崎シンフォニーホール等音楽施設への英国の音楽家の招聘などの交流事業を実施。
	平塚市 神奈川県	リトアニア	・リトアニアの事前合宿（バスケットボール等）を誘致。合宿を契機に同国と市内にある多様な教育機関との間で、学術交流や市民レベルの相互派遣を大会後も継続。
	厚木市	ニュージーランド	・事前合宿誘致に向けて、ニュージーランドラグビー協会との意見交換及び交流計画を実施するとともに、大会後も同国との交流を継続。
新潟県	新潟県 燕市 新潟市 五泉市 長岡市 弥彦村	モンゴル	<ul style="list-style-type: none"> モンゴルのアーチェリーチームの事前合宿を誘致。横綱日馬富士関などモンゴル力士や地元大学の留学生などと交流。 市民を対象に同国の伝統や文化を学ぶ交流事業を展開。市内の小中学校生を同国に派遣。

都道府県	登録団体名	相手国・地域	計画の特色
新潟県	柏崎市	モンテネグロ、セルビア	<ul style="list-style-type: none"> • 地元の水球社会人チームの人脈を活用して、モンテネグロ、セルビアの水球チームの事前合宿を誘致。 • 大会前から、同チームに在籍する選手と市民との交流を進め、2020年に向けた機運を醸成。
	十日町市	クロアチア	<ul style="list-style-type: none"> • 2002年FIFAワールドカップサッカー大会においてクロアチアの事前合宿を受け入れた縁で交流を継続している。 • 大会前から、ユースチームの受入れを行うなどして2020年に向けた機運を醸成。毎年実施している「クロアチアウィーク」において観光、食、写真展などによる交流を実施。3年に1度開催される芸術祭「大地の芸術祭」とも連携。
	上越市	ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> • 国内で有数の体操専用練習施設(大湯体操アリーナ)があることから、ドイツの体操チームの事前合宿を誘致。大会前にジュニア選手との交流を行うほか、協定を締結した大学と連携しスポーツ振興を図る。
長野県	駒ヶ根市	ベネズエラ、ネパール	<ul style="list-style-type: none"> • 市内に「JICA青年海外協力隊訓練所」がある縁から、かねてより交流のあるベネズエラ・ネパールの選手に2020年大会時に訪問してもらう。音楽家を招へいして音楽祭を開催するなど文化交流も実施。
	佐久市	エストニア	<ul style="list-style-type: none"> • エストニア国内の都市と姉妹都市協定を結ぶ国内唯一の都市で、2005年のスペシャルオリンピック長野大会の際も同国の選手団をホームステイなどで受入れ。 • こうした縁を活かし、同国の事前合宿を誘致するとともに、子ども同士の相互訪問を開始するなど、交流を深化。
岐阜県	岐阜県 高山市 下呂市	英国、フランス、米国	<ul style="list-style-type: none"> • 飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアでこれまで世界陸上大会等の事前合宿を行ってきた国々を誘致。 • 飛騨牛や木工など飛騨文化を相手国の方に体験してもらうイベントの開催に加え、相手国で開催される国際観光展への出展など、経済、観光面での交流も計画。
静岡県	三島市	米国	<ul style="list-style-type: none"> • 2015年バレーボールワールドカップの際、地元のチーム（東レアローズ）と連携して米国の事前合宿を誘致。 • 大会までの間、バレーの国際大会が行われる際、相手国と一緒に三嶋大社の見学や夏祭りの体験などを実施。
	焼津市	モンゴル	<ul style="list-style-type: none"> • 2015年8月にモンゴルレスリングチームの事前合宿受入を決定。モンゴルの代表的な祭典「ナーダム」を擬した「焼津ナーダム」を開催し、モンゴルへの愛着を高め、まちぐるみで同国を応援する体制を構築。
	掛川市	台湾	<ul style="list-style-type: none"> • 市内にJOCアーチェリー強化センターが所在することを活かし、台湾チームを誘致。 • 台湾事務所を持つ県の取組みとも連動。
	藤枝市	イタリア	<ul style="list-style-type: none"> • 2015年9月、ロンドン五輪金メダリストを含むイタリア射撃チームを同市の射撃施設（2003年国体ライフル会場）に招へいし、視察や市民との交流事業を実施。また、同国の柔道チームなどの事前合宿の誘致にも取り組む。
	伊豆の国市	モンゴル	<ul style="list-style-type: none"> • ソンギノハイラン区との交流を契機に、2015年8月、モンゴルの柔道選手団及びパラリンピック選手団の受入れが決定。選手団と市の柔道少年団等との交流を大会前から継続的に行い、機運を高める。
京都府	京丹後市	韓国、オーストラリア	<ul style="list-style-type: none"> • 久美浜湾では、毎年全国最大級のドラゴンカヌー大会を開催。ジオパークを利用した観光カヌーも活用し、スポーツツーリズムを推進し、交流人口の増加を図っている。 • 2004年から韓国ソサン市のソウリョン高校とカヌー交流を継続している縁を活かし、同国のカヌーチームの事前合宿を誘致。また、オーストラリアの事前合宿も誘致。

都道府県	登録団体名	相手国・地域	計画の特色
兵庫県	神戸市	英国、オーストラリア	<ul style="list-style-type: none"> 英国の体操チーム及びオーストラリアの水泳チームの事前合宿誘致に取り組み、併せて中学・高校生世代の交流事業を行う。また市内施設等の多言語化、観光案内サインの整備など受入れ環境の充実を図る。
鳥取県	鳥取県	ジャマイカ	<ul style="list-style-type: none"> 過去2回、世界陸上の事前合宿でジャマイカの陸上チームを受入れ。これを契機に同国のウェストモアランド県と姉妹都市提携が進むなど、スポーツをきっかけに両者の交流が活発化。 こうした縁を活かし、2020年大会においても事前合宿を誘致し、交流の更なる充実を図る。
岡山県	倉敷市	ニュージーランド	<ul style="list-style-type: none"> 1973年、我が国で初めてのニュージーランド（クライストチャーチ市）との姉妹都市となる。2011年のクライストチャーチでの大地震の際には独自の救援隊を派遣するなど絆を深めており、42年間充実した交流を継続。 このような縁を活かし、同国のオリパラチームの事前合宿を誘致し、大会時にはニュージーランドの来日応援団と行動してチームを応援。美観地区など観光拠点の受入環境整備も行い、海外からの誘客に弾みをつける。
徳島県	徳島県	ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> 第1次大戦時、現在の鳴門市にあり、ドイツ兵捕虜に人道的な対応をした「板東俘虜収容所」における地元住民との交流が友好関係に発展。 2007年からニーダーザクセン州との間で、友好協力協定を締結し、スポーツ、経済、文化など多くの分野で交流を継続。こうした縁を活かし、事前合宿等の誘致を推進。「阿波おどり」「阿波藍」「お遍路」などの地元文化をアピールするとともに、2021年の関西ワールドマスターズゲームズも見据え、取り組みをレガシー化。
福岡県	福岡県	スウェーデン	<ul style="list-style-type: none"> 2014年10月、スウェーデンの事前合宿の受入れを決定。これを契機に、スウェーデンに関する教育やスウェーデン企業との交流を進める。
	北九州市	タイ	<ul style="list-style-type: none"> これまでも環境分野での国際協力に加えて、フィルムコミッションを通じたタイとの交流を活発に実施。新たにスポーツ分野での交流も開始し、事前合宿を誘致。
	飯塚市	南アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> 長年にわたり「飯塚国際車いすテニス大会」を開催し、多くの海外選手と交流を継続。大会の運営を支えてきた市民ボランティアの活動などこれまでの蓄積を活かし、交流の深化を図る。 日本のプロ車いすテニスプレーヤーの助言も得つつ、強豪国の一つである南アフリカの事前合宿の誘致に取り組む。
佐賀県	佐賀県	オランダ	<ul style="list-style-type: none"> 有田焼のものづくり技術とオランダのデザイン力のコラボレーションなど産業面で交流のあるオランダの事前合宿を誘致。大会を契機に、相手国における有田焼の認知度を深め、文化・技術分野での交流も更に展開。
熊本県	熊本県	インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> バドミントン伝統国であるインドネシアと、これまで選手・指導者の交流や大会の開催などを通じ交流を継続。 同国の事前合宿の受入れを通じ、食事面などムスリムの受入体制も充実化。
大分県	別府市	ニュージーランド	<ul style="list-style-type: none"> 同じ温泉地という繋がりがある姉妹都市（ロトルア市）の協力を得て、2019年ラグビーワールドカップ及び2020年大会におけるニュージーランドのラグビーチームの事前合宿を誘致。
宮崎県	宮崎県 宮崎市 延岡市	ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> 2002年FIFAワールドカップサッカー大会でドイツチームの事前合宿を受け入れた実績を踏まえ、事前合宿を誘致。

ホストタウン（第1次）の全国分布について



(参考) 過去の大規模大会等との比較

大規模大会		参加国・地域	参加選手数	競技・種目数
1964東京大会	オリンピック	93	約5,100人	20競技・163種目
	パラリンピック	21	約370人	9競技・144種目
1998冬期長野大会	オリンピック	72	約2,200人	7競技・68種目
	パラリンピック	32	約600人	5競技・34種目
2002FIFAワールドカップ・サッカー		32	736人 (32ヶ国・地域×23人)	1競技
2019ラグビーワールドカップ		20	620人 (20ヶ国・地域×31人)	1競技
2020東京大会	オリンピック	※204 (ロンドン2012)	※約10,500人 (ロンドン2012)	2020は追加を提案中の競技を含め33競技を予定 ※26競技・302種目 (ロンドン2012)
	パラリンピック	※164 (ロンドン2012)	※約4,200人 (ロンドン2012)	22競技 ※20競技・503種目 (ロンドン2012)